

避難情報と避難行動

- 気象庁では下記の表の左側のとおり、1 から 5 までの数値を用いて警戒レベルを発表します。これは避難情報ではありませんので注意が必要です。
- 避難情報は、「高齢者等避難」、「避難指示」、「緊急安全確保」の 3 種類からなり、各市町村が発令します。
- 真室川町は面積が広大で河川や土砂災害区域等の地理的条件が地区によって大きく異なるため、気象庁が発表した警戒レベルや今後の予報を参考にしながら、区長さんや関係機関と連携して各地区の情報を収集し、避難所の開設を判断します。
梅雨前線による大雨などの際は、できるだけ範囲を限定して避難情報を発令します。
- 雨の状況に応じて取るべき行動は表の右側のとおりです。
事前にハザードマップなどで確認をしておき、避難が必要な場合は、避難所にこだわらず、親戚や知人の家などの安全な場所に避難することもお考えおきましょう。

気象庁が発表する警戒レベル	町が発令する避難情報	状況・段階	取るべき行動
1	なし	天気が悪化する予報です。	・気象情報に注意し、いつでも避難できるよう、避難先や避難経路を確認しておきましょう。 ・避難に備えて、食糧や生活必需品を準備しましょう。
2			・この段階で避難所に避難を希望する場合は、町や区長さんに連絡してください。町が開設の準備をします。
3	高齢者等避難	大雨や洪水により災害が発生するおそれがある状況です。	・避難が必要な地区や開設する避難所など、町から色々な方法でお伝えします。 ・町からの避難情報がでたら、避難が必要で、移動に時間を要する方と支援する方は、町が指定した避難所に避難を開始してください。 ・避難の際は、食糧や生活必需品などを持参してください。
4	避難指示	河川の氾濫や土砂災害が発生するおそれが高い状況です。	・危険な場所にいる方は、全員避難してください。 ・状況に応じて、近くの安全な場所や建物に避難してください。
5	緊急安全確保	災害が既に発生しているか、または切迫している状況です。	・直ちに命を守るための最善の行動を取ってください。

裏面もご覧ください。



ひなん
「避難」って
何すれば
いいの？

小中学校や公民館に行くことだけ
が避難ではありません。
「避難」とは「難」を「避」けること。
下の4つの行動があります。



行政が指定した避難場所 への立退き避難

自ら携行するもの
・マスク
・消毒液
・体温計
・スリッパ 等



安全な親戚・知人宅 への立退き避難

普段から災害時に避難
することを相談して
おきましょう。

※ハザードマップで安全か
どうかを確認しましょう。



普段から
どう行動するか
決めておき
ましょう

安全なホテル・旅館 への立退き避難

通常の宿泊料が必要
です。事前に予約・
確認しましょう。

※ハザードマップで安全か
どうかを確認しましょう。



屋内安全確保

ハザードマップで以下の
「3つの条件」を確認し
自宅にいても大丈夫かを
確認することが必要です。

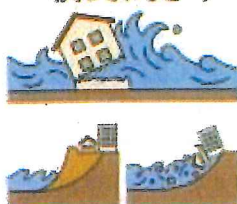
想定最大浸水深

※土砂災害の危険がある
区域では立退き避難が
原則です。



「3つの条件」が確認できれば浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です

① 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない
(入っていると…)



流速が速いため、
木造家屋は倒壊する
おそれがあります

地面が削られ家屋は
建物ごと崩落する
おそれがあります

② 浸水深より居室は高い

3~4階	5m~10m未満 (1階床より上~4階床下浸水)
2階	3m~5m未満 (2階床より上~1階床下浸水)
1階	0.5m~3m未満 (1階床より上~軒下浸水)
1階床下	0.5m未満 (1階床下浸水)

③ 水がひくまで我慢でき、
水・食糧などの備えが十分
(十分じゃないと…)

水、食糧、薬等の確保が困難になる
ほか、電気、ガス、水道、トイレ等の
使用ができなくなるおそれがあります



※①家屋倒壊等氾濫想定区域や②水がひくまでの時間(浸水継続時間)はハザードマップに記載がない場合がありますので、お住いの
市町村へお問い合わせください。

豪雨時の屋外の移動は車も含め危険です。やむをえず車中泊する場合は、浸水しないよう周囲の状況等を十分に確認して下さい。

裏面もご覧ください。